

精神疾患病態解明のための死後脳研究の進め方 開催のお知らせ

日時：
8月24日（水）
13:00～17:00

会場：
神戸国際会議場505号室

精神疾患はその有病率や社会生活に及ぼす影響の大きさなどから本年度、本邦でもがん、脳卒中、心疾患、糖尿病とともに5大疾患の一つと位置付けられるに至りました。精神疾患の病態解明とその知見に基づく診療や治療の技術の開発に結び付けることは脳科学の重要な課題の一つとして挙げられています。精神疾患の病態の解明には死後脳を対象とする研究が重要な知見をもたらすことが期待され、欧米では既に死後脳の保管、提供を行うブレインバンクが活発に活動し、研究を推進する体制が整っています。本邦においても近年、死後脳研究の重要性への認識が広がり、体制の整備がされつつあります。

死後脳研究は病態解明の有用なアプローチですが、解析を行うには倫理面での配慮、死後脳組織の技術的な取り扱い、様々な交絡因子の影響を熟知することが必要です。

本チュートリアルでは脳科学に携わる先生方に改めて死後脳研究の有用性、可能性を再認識して頂くとともに、本邦の死後脳研究体制の現状と今後の展望、死後脳研究を行う上での実用的な知識、死後脳研究体制が整うまでの過程も含めてご紹介し、死後脳研究への理解を深めて頂く主旨で開催を企画しています。ふるってご参加下さい。

参加費：無料

参加申込：下記事務局メールアドレス宛にご氏名、ご所属、連絡先住所、電話番号、メールアドレスをご送付下さい。

事前登録締切：2011年8月17日（水）午後5時まで

先着順で参加制限をさせて頂くことがありますことをご了承下さい。
参加受付のお知らせはメールにて配信させていただきます。

プログラム

（司会：理化学研究所 加藤 忠史、東北大学 富田 博秋）

- 13:00 - 13:10 開会の挨拶
～包括脳支援ネットワーク精神疾患拠点の目指すところ～
（東京大学 笠井清登）
- 13:10 - 13:25 イン트로ダクション
～死後脳研究の重要性とブレインバンクの意義～
（理化学研究所 加藤忠史）
- 13:25 - 13:45
ブレインリソースの利用法
（国立精神・神経医療研究センター 有馬邦正）
- 13:45 - 14:25
新潟大学の脳リソースとそれを用いた実験手技の実践
（新潟大学脳研究所 柿田明美）
- 14:25 - 14:40 コーヒーブレイク
- 14:40 - 15:20
精神疾患死後脳のトランスクリプトーム、
メチローム解析の実践
（東京大学 岩本和也）
- 15:20 - 16:00
死後脳切片を用いた形態学的研究の進め方と染色像の見方
（東京都老人総合研究所 村山繁雄）
- 16:00 - 16:20
死後脳研究の注意点：倫理的側面と技術的側面
（東北大学 富田博秋）
- 16:20 - 16:40
精神医療の現場での脳ドネーションの実践
（名古屋大学 入谷修司）

